



台地上のしょうしやな鉄筋コンクリート建物が測候所である。昭和12年に設立され翌13年から観測開始された。屋久島は月のうち25日は雨と形容されるほど雨日数の多いところだ。雨量も決して遜色はなく過去の記録を拾ってみると日量最大580ミリ、1時間最大100ミリという物すごい豪雨である。年間雨量は3700ミリ東京の約2倍半にあたる。風も強く風速30メートルはめずらしくない。本土を襲う台風の進路に当り、予報中樞機関に体当りで通報する

地方だより

屋久島測候所

鹿兒島を離れ百トンあまりの小型汽船で錦江湾を南下し佐田岬を後にして大隅海峡にできれば、高気圧のセンターにないかぎり、船は木の葉のようにもみ苦茶に揺られる。8時間で屋久島一湊港に入港、はしけの出迎えをうける。少し風が強ければサーカスの上陸となる。

上陸して先ず奇異に感ずるのは民家のひらきの屋根に、1貫あまりもある石が無数に並べてあることだ。原始的な方法ながら風速50~60メートルにも充分たえうる。かわらぶきよりも堅固だ。あえて経済的理由ばかりでなく耐風雨の立場からでもある。

から、特に台風期にはなくてはならない南の第1線である。最大風速44メートル、瞬間最大58メートルを記録したこともある。

しかし小笠原の高気圧が張り出す夏が訪れると、晴天がわずく日も多くなる。このときは我等の楽土だ。暑い日でも最高気温は30度そこそこ、海風がそよそよと吹いて来る。砂浜には釣する人の姿が多くなる。海辺には子供達が嬉々としてたわむれる。実に楽しい時期である。

ともあれ孤独と静寂を愛する方々には楽天地であろう。

写真は寺田通撮影。

(東島 茂)

目

次

表紙写真 潮岬におけるゾンデ飛揚.....佐藤 功 撮影(8頁参照)

台風來襲前後の海況変化とその予報	宇田道隆	1
報 1955年初夏の酷暑について	須田建	4
文 飛驒地方における天明・天保頃の天候	高橋百之	9
日本のラジオゾンデの歴史(1)	大井正一	12

歐米の予報事業と予報研究.....荒川秀俊.....15

ソヴェトの夜間最低気温予想法.....当舎万寿夫.....21

世界のゾンデ—フランス—.....関口理郎.....25

地方だより | 屋久島測候所.....東島茂...表紙 2

台風観測の思い出.....三島恒夫.....8

書 | 台風十三号始末記.....14 世界海洋探険史.....27

評 | 気候学関係文献抄録.....27 The Restless Atmosphere27

| 台風の語.....表紙 3

雲鏡.....28